千代田区立日比谷図書文化館

# 文化財

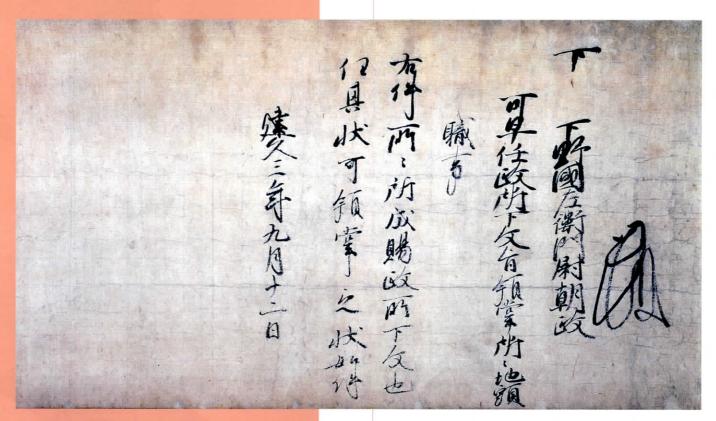
Autumn 2013

# 平成25年度文化財特別展 「鎌倉と江戸-中世と近世の武士-」 開催 特集号

会期: 平成25年10月26日(土)~12月8日(日)

※11月18日(月)は休館日 月曜~土曜:10時~18時 日曜・祝日:10時~17時

会場:1階特別展示室(観覧無料)



「源頼朝袖判下文」神奈川県指定文化財 神奈川県立歴史博物館所蔵

#### Index

- 特集 平成25年度文化財特別展 「鎌倉と江戸一中世と近世の武士一|開催
- 常設展示室 V室リニューアル!
- 5 埋文ニュース 尾張藩麹町邸跡の発掘調査 一上智大学構内の遺跡一
- 収蔵庫から 琉球からきた [壺屋焼]の徳利
- 区内文化財調査 区内狛犬めぐり
- 体験教室 街頭紙芝居を実演します!!

鎌倉と江戸は、東日本におかれた武家政権の所在地でし た。しかし、御家人の力が強かった鎌倉時代と、幕府が大き な力を持っていた江戸時代では、政権の在り方が大きく異な ります。今回は、御家人や大名・旗本に関する資料や、政権都 市整備などを示す鎌倉と千代田区内で出土した遺物などを 展示して、中世と近世の武士は、何を大切にしていた人々だっ たのか考えます。

#### 〈展示解説〉

以下の日程で、担当学芸員が展示解説を行います。

11月21日(木)15時~ 11月28日(木)15時~

(所要時間40分程度·予約不要)

時間になりましたら特別展示室の入口付近にお集りください。

11月 9日(土)11時~ 11月16日(土)11時~

## 特 平成25年度文化財特別展 「鎌倉と江戸・中世と近世の武士・| 開催

平成25年(2013)10月26日(土)から12月8日(日)に日比谷図書文化館特別展示室において、開催 する文化財特別展「鎌倉と江戸-中世と近世の武士-」では、中世と近世の武士が何を大切にした人々だっ たのか考えます。ここでは、その展示資料の一部をご紹介します。

#### ○鎌倉幕府と武士

鎌倉幕府は、政権の主である鎌倉殿と、鎌倉殿と主 従関係を結んだ御家人と呼ばれる武士たちによって構 成された組織です。この組織の根幹をなすシステムが 「御恩と奉公」と呼ばれるものでした。御恩とは幕府が 武士の領地や権利を保証し、手柄をたてれば恩賞とし て新しい領地や官位などを与えることです。

一方、奉公とは、幕府が命じる工事の負担、軍事行 動や行事への参加といった義務を果たすことを御家人 に求めたものです。

中世の武士が一番大切にしていた財産は、戦士とし ての誇りと、領地や領有を示す文書などでした。

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』には、政所の役人が出 した地頭職任命の文書に対し、千葉常胤という御家 人が頼朝の署名のある文書が欲しい、と要求したた め、頼朝が署名した文書が発行された、という話が記 されています。今回の特別展では、この話とほぼ同時 期に同じ内容で小山朝政という御家人に発給された 源頼朝が署名した「源頼朝袖判下文」(複製)を展示し ます。

この史料は、「政所が出した文書のとおり、小山朝 政は地頭として所領を治めるように」というもので、幕 府が武士に領地を与えた、いわゆる「御恩」にあたるも のです。千葉常胤が源頼朝の署名が欲しい、と訴えた のは、他の武士と争いとなった時の証拠とするためで した。鎌倉の武士たちが幕府に求めていたのは、彼ら の財産を保証してくれることだったことがわかる逸話 です。

奉公を示す資料としては、鎌倉の若宮大路側溝の 工事を担当する御家人の名が記された木札がありま す。この木札には、「二けん おぬきの二郎」「二けん かわ志里の五郎」「二けん まきのむくのすけ」と書 <sup>2</sup> かれています。



写真 1 鎌倉市指定文化財「木札」 北条小町邸跡出土 鎌倉市教育委員会所蔵

#### ○江戸幕府と武士

江戸幕府に仕える武士も鎌倉時代と同じように、幕 府に対して様々な義務がありました。ただし、戦国の 覇者として天下を統一した徳川家と大名の関係は、幕 府が領地替えや屋敷替えを命じる権限を持つなど、と ても上下関係がはっきりしたものでした。

戦乱が治まった江戸時代には武功によって名を挙 げるのではなく、幕府への勤務実績が重要となります。 武士たちは財産を守るというよりも、家名を保つため に落ち度なく役目を果たしていくことが必要でした。

江戸時代前期の大名たちが必死に働きをアピール した場のひとつが、江戸城の普請でした。江戸城の普

請は、幕府の威信を示すものであり、また同時に政権 都市江戸の整備も兼ねたものでした。展示では、江戸 城築城の総仕上げとなった寛永12・13年の江戸城 外堀普請時の遺構が発掘された丸の内一丁目遺跡か ら出土した石垣の土台木などを紹介します。

江戸時代の武士は幕府や藩から、勤書などと呼ば れる勤務実績や、家の系図を提出するよう命じられる ことが度々ありました。

このような書類をもとに作成された「由緒書」は系 図などとともに家の記録として伝えられていったので す。特別展では、旗本や地方武士の家に伝わった家の 系図や、勤務記録および勤務マニュアルとして残した 文書などを展示します。(斎藤一真)



写真2 「勤書」個人蔵

#### 《講演会》

特別展に関連した講演会を行います。

①11月9日(土)13時30分~15時30分 「江戸の城づくりと都市整備」

講師:谷川章雄氏

(早稲田大学人間科学学術院教授)

②11月16日(土)13時30分~15時30分

「政権都市・鎌倉の都市づくり」

講師:高橋慎一朗氏

(東京大学史料編纂所准教授)

いずれも定員60名 受講料 各200円 会場:日比谷図書文化館小ホール

#### 《関連講座》

特別展に関連した講座を行います。(全2回)

①11月21日(木)19時~21時

「遺跡にみる都市・鎌倉の土地利用」

講師:鈴木庸一郎氏

(鎌倉市文化財課)

②11月28日(木)19時~21時

「中世と近世の武士」

講師:斎藤一真

(日比谷図書文化館 文化財調査指導員)

定員20名 受講料:300円(2回分) 会場:日比谷図書文化館セミナールーム

#### 《申认》

講演会・関連講座は電話、Eメールのいずれかにて人数、氏名、ご住所、電話番号を明記の上、下記までお申込 みください。定員に達し次第、受付終了いたします。

日比谷図書文化館 文化財事務室

電話: 03-3502-3348 Eメール: rekimin@vesta.ocn.ne.ip

尾張藩麹町邸跡の発掘調査一上智大学構内の遺跡一

平成23年11月4日にオープンした千代田区立日比谷図書文化館は、今年で2周年を迎えます。それ にともなって当館常設展示室もオープンしましたが、この度、常設展示のV室「まちの歴史」の一部をリ ニューアルいたしました。

#### ○「神田の糀室」コーナー

「商人・職人のまちー内神田・外神田界隈一」の「神田 の糀室」のコーナーでは、天野屋の糀室のパネルを新設 しました。これまではモニターで糀室の画像を数秒間放 映していましたが、パネル化することにより、よりわかり やすく内部の様子が伝えられるようになりました。

天野屋の糀室は明治37年(1904)に建築された地 下室で、現在の生活面から約6m下に存在しています。 実はこの室の天井高は、一番高いところでも160cmほ どしかありません。ですから、室ではほとんど前かがみの 姿勢で作業を行なうことになるのです。東京のまんなか の狭くて暗い地下室の中。しかし、この空間が神田の糀 製造には適しているようで、現在でもこの室で天野屋の 糀は製造されています。この室は一般公開していないの で、本コーナーにて、昭和30年代に糀製造で使用してい た道具とともに、地下6mの空間を垣間見ていただきた く思います。



#### ○「千代田区の近現代史」コーナー

V室の出口付近には、千代田区の近現代の年表が展 示してあります。この年表では、大政奉還や王政復古の 大号令のあった慶応3年(1867)から千代田区が文化 財保護の取り組みを始めた昭和46年(1971)までを 扱っています。特に千代田区域は明治維新を境にして、

江戸の中心部から東京の中心部へと変わり、さらに関東 大震災、第二次世界大戦、東京オリンピック、高度経済 成長期などを経て歴史とともに、人々の生活、まちの景 観が変化してきました。

今回、新たに展示した「ごみ箱」(複製)も東京オリン ピックの開催にともなって東京から姿を消した生活道具 のひとつです。明治32年(1899)、内務省衛生局によっ て推奨された蓋付容器「塵芥箱」は、各家の前や路地な ど野外に置かれる「ゴミ箱」のモデルとして昭和まで引き 継がれてきました。ところが、昭和39年(1964)の東京 オリンピック開催にともない、「開催地にふさわしい環境 整備」の一環として、野外に置かれた木製やコンクリート 製のゴミ箱は撤去されることになったのです。このほか、



高速道路が建設されるなど、オリンピックを契機に東京 の景観は大きく変わりました。2020年には再び東京で オリンピックが開催されます。近い将来、どのように東京 の景観が変わるのか楽しみです。

また、このコーナーでは、火熨斗・炭火アイロン・ガス アイロン・電気アイロンを展示しています。これらは、布 のシワを伸ばす代表的な道具ですが、その熱源は炭、ガ ス、電気と変化してきました。仕組みや材質の変遷もあ わせて観ていただきたいと思います。

なお、常設展示室の資料は、資料の状態によって展示 替えを行なうことがございます。(加藤紫識)

上智大学の位置する紀尾井町は、江戸時代には徳川御三家の紀州藩徳川家と尾張藩徳川家、有力な譜 代大名である彦根藩井伊家の三家の屋敷にあたり、三家から一字ずつ取って付けられた町名です。

#### ○地域の歴史

埋文ニュース

中世の麹町一帯は国府方と呼ばれる村や寺院が あったと伝えられ、徳川家が入府した天正18(1590) 年には麹町に町屋を置き、諸職を開かせたとあります。 この地域には、酒や味噌、醤油などの製造に欠かせな い麹を培養するための麹室が見つかり、麹製造を担う 町家が広がっていたと考えられます。

また、江戸城外郭の西の守りとして、慶長17年 (1612)には「喰違」と呼ばれる城門が置かれ、寛永 13年(1636)に外堀が造られ、四谷門が置かれまし た。この地域は高台地に位置し、近隣に中世以来の道 が通過したと考えられることから、江戸城防御の要に 位置していました。そのため、尾張藩徳川家は、外堀完 成翌年の寛永14年に約一万坪の麹町邸を拝領しまし た。その後、元禄10年(1697)の将軍綱吉の御成に際 し、屋敷北側の麹町九丁目の町地を取得して、御殿が 占める屋敷となります。明和4年(1767)に上屋敷であ る市谷邸が拡張されると、麹町邸はそれ以降もっぱら 藩士長屋や畑地利用となり幕末を迎えます。





### ○尾張藩麹町邸の発掘調査成果

尾張藩麹町邸跡は、これまで7度の発掘調査を行われ 多くの成果をあげています。今年の5~7月まで実施した 発掘調査では、17世紀末までの江戸時代前期の遺跡と 18世紀中頃の江戸時代中期の遺跡が発見されました。

上智大学の敷地は、ほぼ平坦な地形ですが、敷地南 東側には清水谷があり、発掘地点は深さ6mにも及ぶ 深い谷に位置していることがわかりました。この谷地 を埋め立てる工事は、尾張藩の屋敷拝領前後に行わ れており、江戸城外堀整備と連動して行われたと考え られます。当時の記録にも、外堀の掘削で生じた土は、 周囲の谷の埋め立てに使われたとあります。

江戸前期の遺跡は、尾張藩と道幅約7~9mの路地 跡(砂利道)、町人地が明らかとなり、それぞれ独自の 埋め立て事業が行われていました。町家跡には礎石の 建物跡やゴミ穴などが確認されました。尾張藩邸跡で は、屋敷境と家臣住居の表長屋跡とその庭に掘られた 地下室が確認されました。江戸中期の遺跡は、屋敷中 枢の表御殿に関連するもので、御殿に引かれた石組下 水溝と上水道、土蔵跡があり、御殿の台所に設けられ た竈跡3基が発見されました。(後藤宏樹)

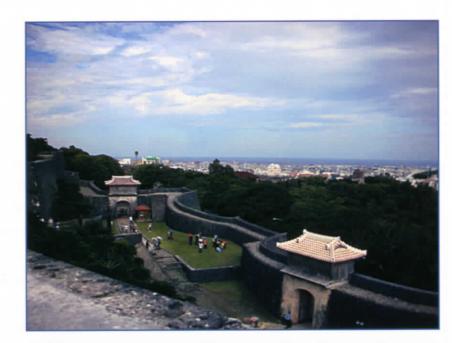


遣财調杏全暑

# 琉球からきた[壺屋焼]の徳利



壺屋焼の徳利 (口径3.4cm、高さ22.0cm)





上下とも、この徳利のふるさと沖縄の写真

この写真の資料は、区内の遺跡の一つ、和泉伯太藩の上屋敷跡の発掘調査によって発見された陶器の徳利です。一見、何の変哲もない徳利のようですが、実は、江戸時代の琉球(今の沖縄県)で作られた壷屋焼で、泡盛などを入れて運んできた、「コンテナ」と考えらます。

おそらく、和泉伯太藩の藩邸の中で容器の中身 (泡盛)は消費されて、この徳利だけが残されたので しょう。最後には、捨てられてしまい、発掘されたので すが、はるか琉球から来たお酒を、江戸のこの地で、 和泉伯太藩の藩士(?)が飲んでいたのでしょう。このようなことを伝えてくれる希少な資料なのです。

そして、実は、この容器、意外に江戸の多くの遺跡から発見されています。とはいえ、江戸遺跡では莫大な量が出土している瀬戸・美濃産(今の愛知県や岐阜県)の徳利に比べてみれば、とても限られた量ですので、ふだんの生活においては、京坂や地回りのお酒を呑み、泡盛などを呑む機会は数少なかったでしょう。この徳利を手にしたときの藩士の気持ちが察せられますね。(水本和美)

# 区内狛犬めぐり

神社やお寺にいくと、境内や参道に一対の狛犬の姿があります。

狛犬の由来は、異国の犬という意味の「高麗」によるとも、魔除けを意味する「拒魔」を語源とするともいわれます。実はこの狛犬、日本の聖獣、霊獣のほとんどが外来であるなか、日本に伝来した後に霊獣化した数少ない例なのです。その起源は明らかではありませんが、エジプトやペルシャ、インドの神殿や門前に置く獅子(ライオン)が中国では唐風の獅子となり、仏教とともに中国や高麗から日本へ伝来したと考えられています。もともとは金属製で、宮中の殿舎や神社で几帳などをおさえるために使用されました。やがて寺社仏閣の本殿内から、境内などの屋外に置かれるようになり、それに伴い大きさも大型化します。そして、境内に置かれるようになると素材も石造となりました。

狛犬が今日のような一対の獅子像として置かれるようになるのは平安時代といわれ、その頃は獅子と狛犬を区別し、頭に角が付けられました。また、置く位置なども決まっていましたが、時代が下るに従って角は退化し、狛犬も次第に獅子のような形態になり、やがて左右同体となって、呼び名も「獅子・狛犬」から左右一対を総称して「狛犬」となります。狛犬は、一方が口を開き、もう一方が口を閉じている阿吽の形態をとるものが多く、この形態は9世紀末に遡るといわれます。

江戸時代になると、狛犬はほぼ、どの神社でも見られるようになり、奉納者も、商人や町人などの「氏子中」によるものが多くなります。また、銘も狛犬自体ではなく台座に彫られるようになり、表情も柔らかくユーモラスなものが多くなっていきます。

千代田区で最古の狛犬は、安永9年(1789)11月に奉納された築土神社の狛犬です。正面の銘文は「元飯田町総氏子中 安永九庚子十一月」、背面は「善龍山成就院 性真代 安永庚子冬十有一月 滕敏」、側面には「市ケ谷田町三丁目 石工平十郎」と彫られています。ここから、この狛犬が安永9年11月に元飯田町総氏子中によって奉納されたことがわかります。

築土神社は、もともとは平川門内にあり津久戸明神といいました。善龍山成就院は、『御府内寺社備考』によれば、「江戸平川」の「善龍山楞厳寺常住成就院」が「津久戸明神別当坊」であったことが記されています。



狛犬銘文(正面)

元和2年(1616)に、外堀普請のために牛込門内から 筑土山(現在の新宿区筑土八幡町)へ移り、築土明神 と改称したといわれます。やがて、戦災によって昭和 21年(1946)に千代田区富士見へ移転し、同29年に 現在の九段中坂の世継稲荷社境内に移りました。

氏子である元飯田町は、九段中坂両側から坂下の外堀一帯に広がっていた町人地です。もとは飯田町といわれましたが、元禄10年の火災によって築地に与えられた代地を南飯田町、もともとの地を元飯田町と呼ぶようになったといわれています。「滕敏」は、「元飯田町総氏子中」に対して狛犬の寄進を仲介した宗教者と考えられ、築土山へ移転したのちも旧来の氏子である「元飯田町」と筑土神社の別当寺成就院との繋がりが



築土神社の狛犬

同えます。 9年、アニューのではないでは、 安て神飯子がでいてのではないででいる。 安にはないではないではないででいる。 ないのが田」させいのでは現れにでいる。 は、きた貴子のではないのでは、 のいではないのでは、 のいでは、 のいでは

# 体験教室 街頭紙芝居を実演します! 街頭紙芝居を知っていますか?!

かつて、街角や公園などの子どもたちの遊ぶ場所には紙芝居のおじさんの姿がありました。学校がおわって友達と遊んでいると、紙芝居のおじさんはどこからともなくやってきます。それは、いつも決まった時間、決まった場所。鳴り響く拍子木の音、水あめにソースせんべい。今と違ってテレビがなかった時代、おじさんが魅せてくれる紙芝居の世界は、子どもたちにとって、最大の楽しみでした。



2009年の実演の様子(区立東郷元帥記念公園)

こうした風景は、戦後、高度経済成長や東京オリンピックの開催によって、急激に都市化の進んだ千代田区では、昭和30年代半ばから次第に見ることができなくなりました。

おじいちゃんやおばあちゃんが子どもだったころの世界、今では見られなくなった昭和の世界をのぞいてみませんか。(小山貴子)

- ○日時:11月3日(日) 11:30~、13:30~、14:30~
- ○場所:千代田区立和泉公園(神田和泉町1)
- ○講師:佐々木遊太氏(国立紙芝居) http://www.sasaki-sasaki.com/kunitachi-kamishibai/
- \*雨天の場合、ちよだパークサイドプラザで行います \*事前予約は必要ありません

#### 《資料提供のお願い》

千代田区教育委員会では、昭和47年より千代田区の生活や文化に関わる資料の収集を行なってきました。これらの資料は購入する場合もありますが、大部分は区民をはじめとするさまざまな方からのご寄贈によるものです。収集した歴史民俗資料は、現在、日比谷図書文化館に保管され、文化財事務室が管理しています。こうした千代田区が収集・保管する文化財の一部をご紹介する機会として、平成25年度文化財企画展「千代田"新発見"一新収蔵・新発見資料展一」(平成26年1月27日~3月3日)を開催する予定です。ぜひお立ち寄りください。

また、皆さんのなかで、千代田区に関係する戦前・戦後の風景や生活の様子を写した写真、あるいは東京オリンピック(昭和39年)の区内に関連する資料や写真をお持ちの方はいらっしゃいませんか?千代田区の文化財として活用にご協力いただける方がいらっしゃいましたら、当館の文化財事務室(03-3502-3348)までご連絡いただければ幸いです。「寄贈してもよい」あるいは「寄贈しないが貸してもよい」という方、どちらも大歓迎です(なお、千代田区の資料収集の方針と異なる場合は、お受けできないこともございますので、ご了承ください)。よろしくお願いします。(本号編集:加藤紫識)



都営地下鉄 ●三田線 「「内幸町駅」 徒歩3分

東京メトロ ●千代田線

●日比谷線

「霞ヶ関駅 | 徒歩5分

●丸ノ内線

駐車場 当施設に駐車場はございません。

開館時間 月~金 10:00~22:00

± 10:00~19:00

日・祝 10:00~17:00

※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。

休館日 毎月第3月曜日 年末年始 特別整理期間

文化財ニュース 第5号

発行日 平成25年10月18日

編集·発行 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務室

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4 TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361 HP:http://hibiyal.jp/bunkazai/index.html

e-mail:rekimin@vesta.ocn.ne.jp

印刷 株式会社 商華堂